

第 3 部 大切岸現況調査

< 目 次 >

1章 調査目的及び方法	1
1. 目的	1
2. 調査対象範囲	1
3. 調査方法	1
2章 調査結果	2
1. 分布地質	2
2. 斜面の安定性について	3
2.1 南西側（切通側）	3
2.2 北東側（逗子ハイランド側）	3
3章 評価	5
1. 安全に対する留意事項	5
2. 対応方法	5
2.1 ハード対策	5
2.2 ソフト対策	5
3. 今後の対応方法	5

1 章 調査目的及び方法

1. 目的

第1切通については、これまで調査対策工が実施されてきている。しかし、大切岸は、通行の安全性を考慮した調査は実施されていない。

そのため、史跡整備に向けた各箇所での崩落の危険性等の安全性の確認を目的として、目視による調査(地表地質踏査)を行った。

2. 調査対象範囲

大切岸と対象とし実施した。

3. 調査方法

調査は、縮尺1：500地形図を基に、斜面の安定性、落石の供給源である浮石・転石の有無の確認、安定性の確認を行った。また、大切岸は、垂直の崖（最大高さ10m前後）から構成されるため、崖の崩落の有無についても確認を行った。

2 章 調査結果

図 2-1 に大切岸状況図を示す。

1. 分布地質

大切岸を構成する地質は、池子層凝灰質砂岩、凝灰質シルト岩等の互層からなる。凝灰質砂岩層には軽石、スコリア等が認められる。

地質構造はほぼ水平であり、崖に対し流盤等は確認されない。

※スコリア：火山碎屑物の一種。多孔質で見掛け密度が小さく、黒色・暗褐色などの黒色系を示す。



大切岸南西側（切通側）、法性寺より

2. 斜面の安定性について

大切岸は高さ5～10mの垂直の崖から構成されている。崖は、池子層凝灰質砂岩、凝灰質シルト岩の互層から構成されている。植生状況から南西側（切通側）と北東側（逗子ハイランド側）に分類できる。以下にそれぞれについて示す。

2.1 南西側（切通側）

（1）現況

畑跡であり、現在、平場は草地となっている。

崖は高さ5～10m前後の垂直な崖を形成している。崖を構成する池子層は互層沿いに風による浸食をうけ、凹凸を形成している。特に斜面下部では浸食により最大1.0m オーバーハングしている（図2-3,写真O-2参照）。

2) 安定性について

崖の凹凸部分では小規模な縦方向の割れ目が形成されており、径20cm前後の落石が確認された。崖内では多数の箇所と同様の緩み箇所を確認しており、今後、径10-20cm前後の落石（表面剥離）が発生するものと考えられる。

図2-1に示すO-1,O-3地点では、縦方向の割れ目沿いに緩みが進行し、浮石化している箇所が確認された。規模を以下に示す。

- ・ O-1 地点：2.0×1.0×0.5m

- ・ O-3 地点：5.0×2.0×3.0m

特にO-3地点は、割れ目の開口幅が10cmと大きい。この開口幅は、割れ目沿いの浸食も影響し大きくなっている。しかし、崖上方では一部密着している箇所も確認された。

上記割れ目確認箇所は、今後、早急に崩壊の危険性は無いと考えられるが、注意が必要となる。

2.2 北東側（逗子ハイランド側）

（1）現況

樹林内であり、風による浸食は見られない。崖はほぼ垂直であり、縦方向の割れ目が多数確認された。

（2）安定性について

図2-1に示すO-4～O-9地点では、割れ目沿いに緩みが進行し、浮石化している箇所が確認された。

これらは、1.0～2.0m程度の浮石で、やや不安定である。今後、早急に崩壊の危険性は無いと考えられるが、注意が必要となる。

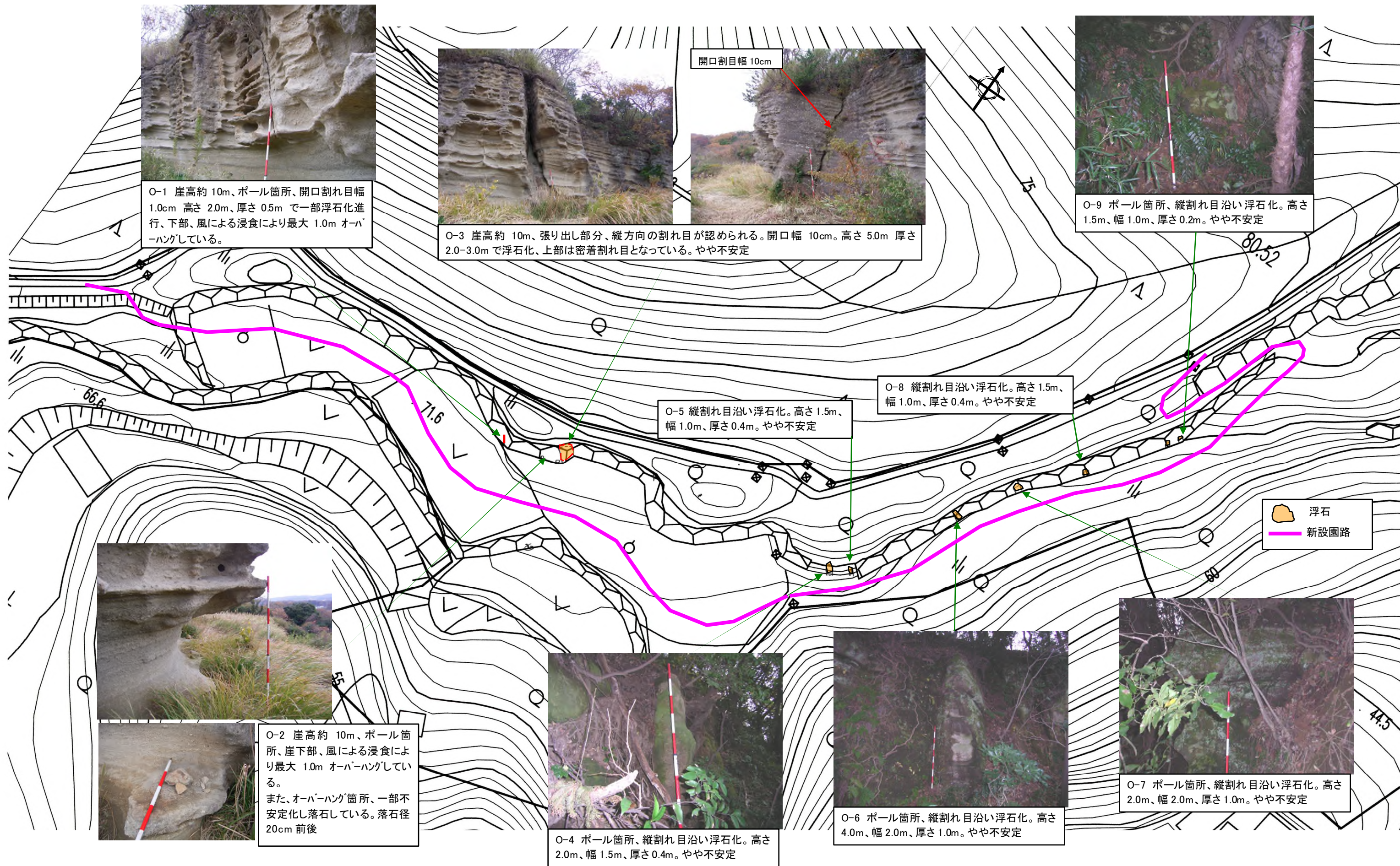


図 2-1 大切り岸状況図[縮尺 1 : 500]

3 章 評価

1. 安全に対する留意事項

図 2-1 に示すように、南西側（切通側）では崖表面の凹凸からの小規模な落石（表面剥離）、全箇所では、O-1 地点、O-3 地点、O-4～O-9 地点の径数mの浮石に対する対応が必要と考えられる。

各箇所共に、通常時には比較的安全と考えられるが、豪雨時・地震時には注意が必要となる。

2. 対応方法

上述したように早急に対応する必要は無いと考えられる。しかし、長期的には落石等の危険がある。以下にハード対策、ソフト対策それぞれの方策について示す。

2.1 ハード対策

南西側（切通側）では崖表面の凹凸からの小規模な落石（表面剥離）に対しては、強化撥水处理により対応可能と考えられる。

O-1 地点、O-3 地点、O-4～O-9 地点の径数mの浮石に対しては、ロックボルト工＋擬岩処理工が必要と考えられる。

2.2 ソフト対策

緊急性も低く、新設園路範囲は広い。このことから、各地点共に斜面に近づけないように柵等を設置することにより対応可能と考えられる。

3. 今後の対応方法

大切岸では崩落等に対する緊急性は低いと考えられることが挙げられる。

対策対象規模は大きいものの、各地点共に斜面に近づけないように柵等を設置することにより対応可能と考えられる。